

福祉ニーズ調査集計結果

平成 27 年 3 月 31 日

平成 26 年度に実施しました、福祉ニーズ調査の集計結果がまとまりましたので、ご報告させていただきます。

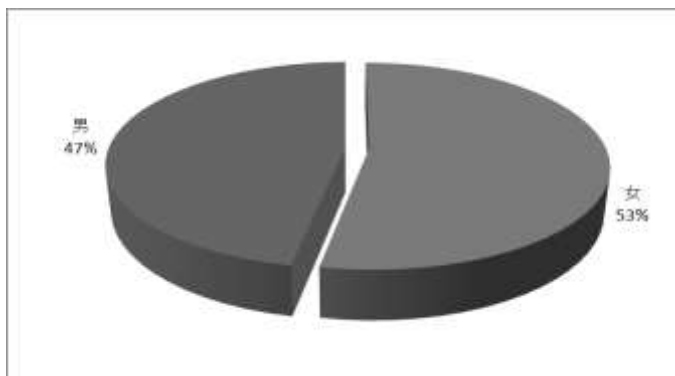
ご覧いただき、ご意見等ございましたらお問い合わせください。

社会福祉法人 登米市社会福祉協議会

福祉ニーズ調査 集計結果

アンケート依頼総数 1,703人 回答総数 1,472人 回収率 86.4%

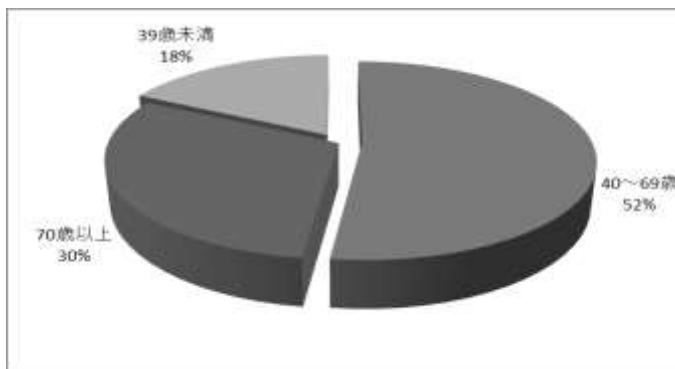
●生活全般に関する事



【設問1】あなたの性別を教えてください。

男 689人 女 779人

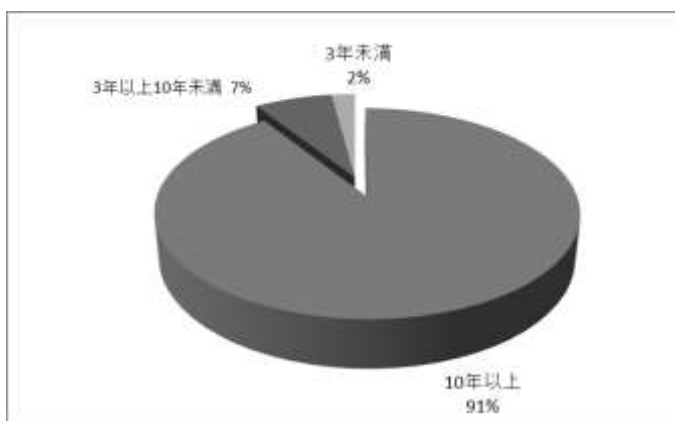
(性別欄未回答が有るため総計と一致しません)



【設問2】あなたの年齢を教えてください。

39歳未満 258人 40~69歳 767人

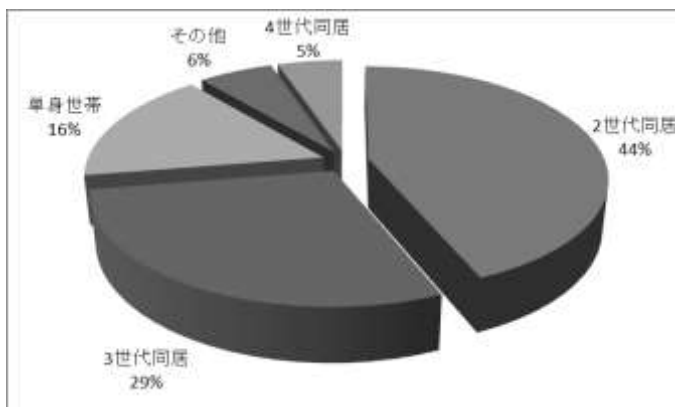
70歳以上 447人



【設問3】あなたの現在の居住年数を教えてください

回答者の90.8%が10年以上

10年未満(9.2)



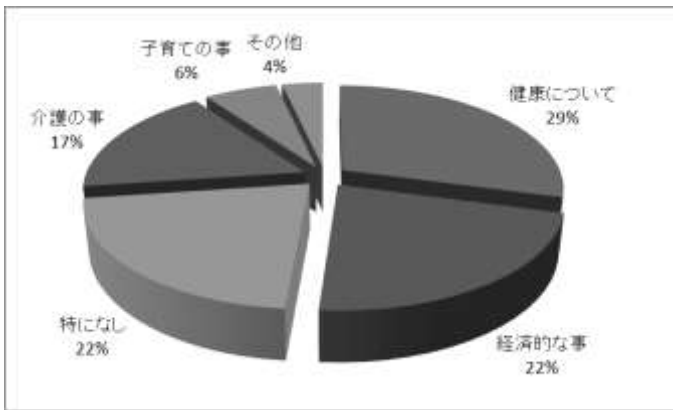
※以下()内は%

【設問4】あなたの世帯の世代構成を教えてください

①2世代同居(43.7)

②3世代同居(28.7)

③単身世帯(16.4)



【設問 6】 現在、不安や悩み事はありますか

- ①健康 (29.2)
- ②経済的な事 (22.1)
- ③特になし (21.5)

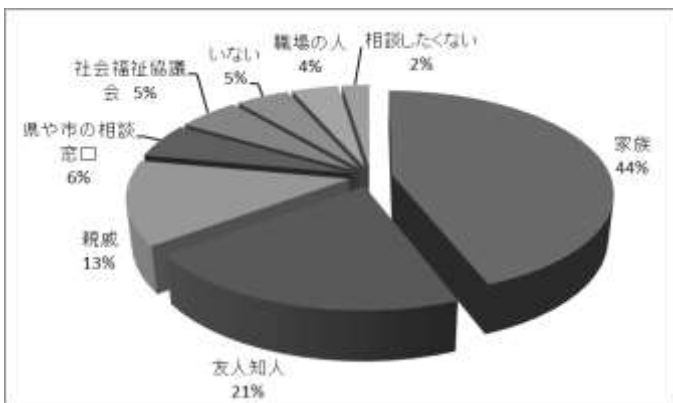
「健康について」不安のある人は、40歳代以上が多く、30歳代以下の一番の不安は「経済的な事」だった。

「介護」に関する不安は年代が上がるにつれ多くなる傾向にある。

「子育ての事」については、30歳代以下で悩みのある人が多い。

不安等は「特になし」と答えた人は、各年代30%程度いた。

※年代により不安を感じる内容に差があるため、個別対策を考える際のキーワードは、「健康」「経済」「介護」「子育て」



前問で「特になし」以外を選択した方にお聞きします

【設問 7】 その不安や悩み事は、主に誰に相談しますか(相談したいですか)

- ①家族 (44.2)
- ②友人知人 (20.5)
- ③親戚 (13.3)

社協と回答した人も 90 人いました

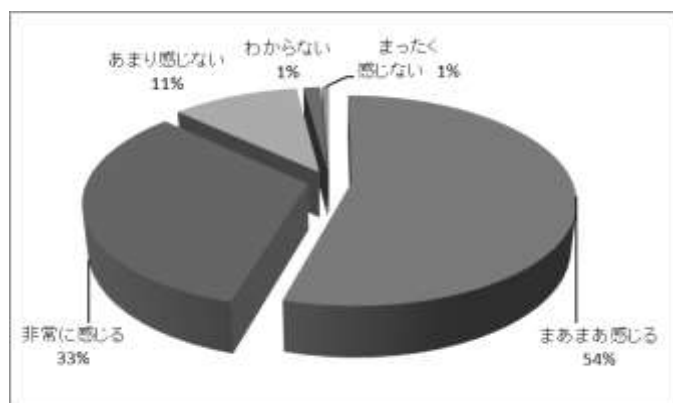
又、不安や悩み事について誰に相談するかとの問いには

全年代で「家族」と答えた人が多く、次いで多かったのが「友人・知人」。

「社会福祉協議会」と答えた人は、年代が高くなるにつれ多くなっている。

※相談事は、家族や友人・知人へ相談するケースが多いが、生活相談事業を個別相談対応が出来る体制をとる必要はないか要検討。

※特に若年世代は、社協に相談窓口がある、相談できるということを知らないし理解不足と感じられる。より一層のPRが必要。



【設問 8】 現在、あなたは地域や友人とのつながりを感じていますか

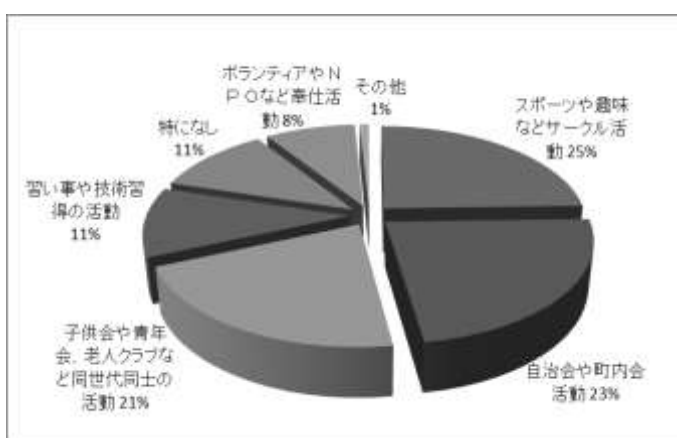
- ①非常に感じる、まあまあ感じる (86.9)
- ②あまり感じない、全く感じない (11.6)

地域や友人との繋がりについては、70歳代以上の約半数が「非常に感じる」と回答し、年代が下がるにつれ少なくなる。

「まあまあ感じる」と答えた人は、60歳代以下で約60%の人が答え、全体としてつながりがあると感じている人が多いが、30歳代以下では約20%の人が「あまり感じない」との回答であった。

※若い世代の地域との繋がりを、どうやって深めていくかが課題。

※地域との繋がりについては、特定の地域や世代だけの課題ではなく、社会全体の問題と思われる。調査結果から繋がりをあまり感じないという人の割合が、そのまま地域社会で参加したい活動が特にないという割合になっている。地域の繋がりや行事参加状況については、行政区長が特に肌を感じている課題である、今後は行政区長等の関連機関との連携を深め、社協も積極的に地域づくりに参画を検討していく必要がある。



前問で「非常に感じる」「まあまあ感じる」を選択した方にお聞きします

【設問 9】 今後、地域社会で参加したいと思う活動はどれですか

- ①スポーツ・趣味・サークル (24.6)
- ②自治会や町内会活動 (23.1)
- ③子供会や青年会、老人クラブ等同世代の活動 (20.9)

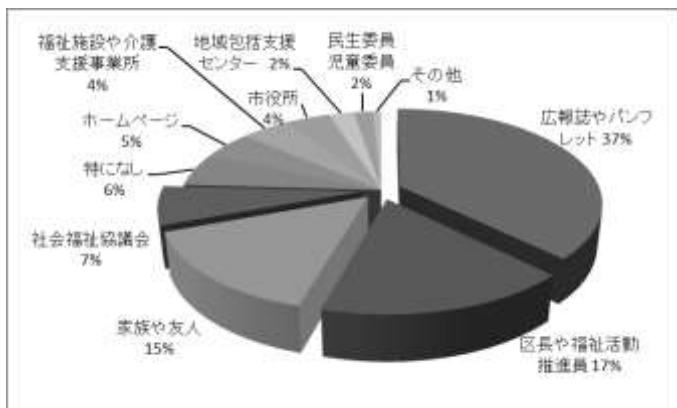
地域社会で参加したい活動では

- 70歳代以上 ①同世代同士の活動 ②自治会や町内会活動 ③サークル活動
- 40～60歳代 ①自治会や町内会活動 ②サークル活動 ③同世代同士の活動
- 30歳代以下 ①サークル活動 ②同世代同士の活動 ③技術習得の活動

地域行事への参加は40～60歳代が多く、70歳代以上は老人クラブ活動等への参加希望が多く、若い世代ではスポーツや趣味活動への参加希望が多い。

※若い世代や、高齢世代の地域参加をどうやって促していくかが課題。

※特になしの回答が1割以上いることに対して、なぜなのかを検証する必要がある。



【設問 10】 福祉制度やサービスの情報をどのようにして入手していますか

- ①広報誌やパンフレット (37.4)
- ②区長や福祉活動推進員 (17.0)
- ③家族や友人 (14.9)

社協と地域包括を合わせると 218 人の回答がありました (8.9)

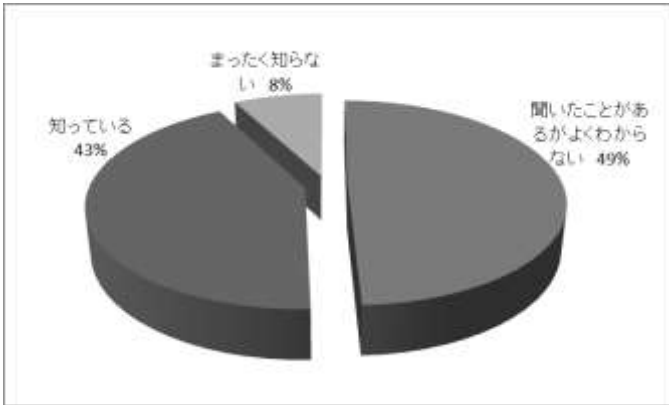
福祉制度やサービスの情報入手先として最も多かったのが、各年代を通じ「広報誌やパンフレット」。「ホームページ」を活用しているのは、30歳代以上が多かったが、全体としては2割程度。

年代が高くなるに従い「区長や福祉活動推進員」と答える比率が多くなる。

全年代を通じて約3割の人が「家族や友人」から情報を入手していると答えた。

※情報の発信については、「広報誌やパンフレット」の充実が最も効果的と思われる。

●高齢者福祉関係

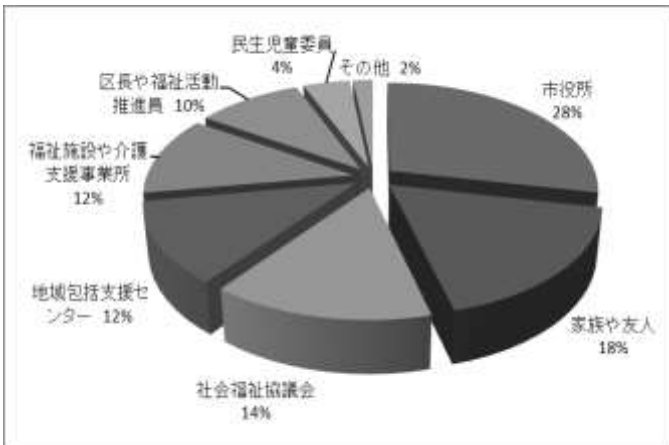


【設問 11】介護保険制度について、又は利用方法について知っていますか

- ①聞いたことはあるがよくわからない (49.4) ②知っている (42.8)
 で全体の 92.2% に認知されています

介護保険制度については、全体の9割以上が耳にしたことがあるが、制度についての知識は年代が下がるにつれ低くなる。若い世代の約25%が制度について全く知識がない。

※若い世代への介護保険制度周知が必要か？



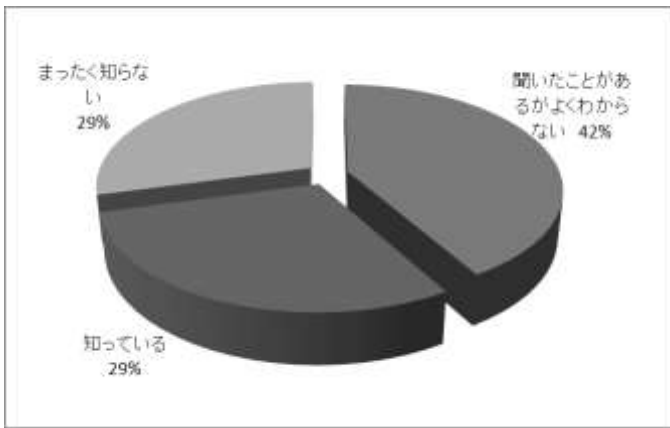
【設問 12】高齢者福祉制度について、又は利用方法についてどこ（誰）に相談をしますか

- ①市役所 (28.3)
 ②家族や友人 (17.8)
 ③社協 (14.3) 包括を含めると 26.4%

高齢者福祉制度の相談先は

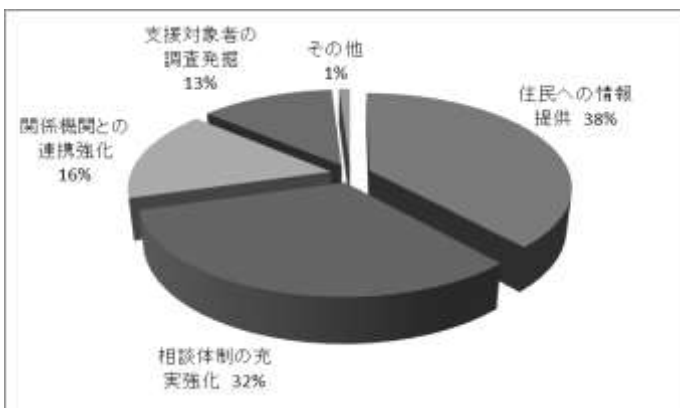
- 70歳代以上 ①家族や友人 ②区長や福祉活動推進員 ③市役所・社協（同率）
 40～60歳代 ①市役所 ②社協 ③福祉施設や介護保険事業所
 30歳代以下 ①市役所 ②家族や友人 ③福祉施設や介護保険事業所
 全体としては ①市役所 ②家族や友人 ③社協

※相談先は社協もある程度利用されているが、まだまだ周知する必要がある。



【設問 13】高齢者の総合相談にあたる地域包括支援センターについて知っていますか

- ①聞いたことはあるがよくわからない (41.6) ②知っている (29.3)
 で全体の 70.9%に認知されています



前問で「聞いたことがある」「知っている」を選択した方にお聞きします

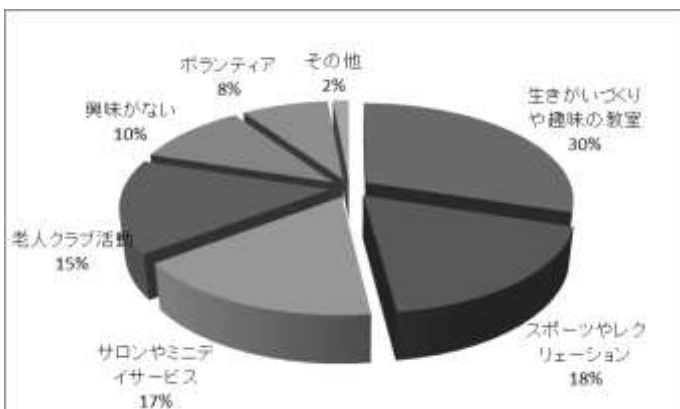
【設問 14】今後、地域包括支援センターに期待することは何ですか

- ①住民への情報提供 (38.4)
 ②相談支援体制の充実強化 (32.1)
 ③関係機関との連携強化 (15.7)

地域包括支援センターについては、全く知らない・聞いたことがある程度で全体の 7 割を占めているが、年代が上がるにつれて認知度は向上している。

また、包括支援センターに期待されることは住民への情報提供が最も望まれている。次いで、相談体制の充実強化、関係機関との連携強化と続いた。

※まず、認知度を高める必要がある。それと同時に、いかにして住民に情報提供をしていくか？そのシステム化を図る必要がある。



【設問 15】高齢者の社会参加活動の中で興味があり一緒に参加したい（又はもっと充実した方がよいと思う）活動はありますか

- ①生きがいづくりや趣味教室 (30.3)
 ②スポーツやレクリエーション (18.1)
 ③サロンやミニデイ (16.6)

高齢者の社会参加化活動で、一緒に参加したい活動については

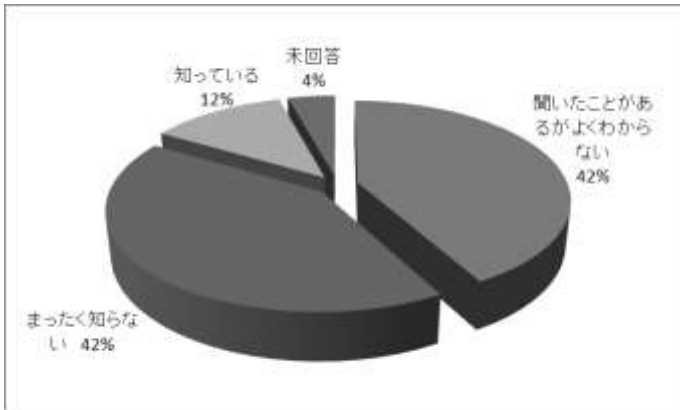
- 70歳代以上 ①老人クラブ活動 ②生きがい・趣味活動 ③スポーツ・レク
 40～60歳代 ①生きがい・趣味活動 ②サロンやミニデイ ③スポーツ・レク
 30歳代以下 ①生きがい・趣味活動 ②スポーツ・レク ③興味がない

全体としても、生きがいづくりや趣味活動への参加が希望されている。

※生きがいづくり・趣味活動の機会と場を増やしていく必要がある。

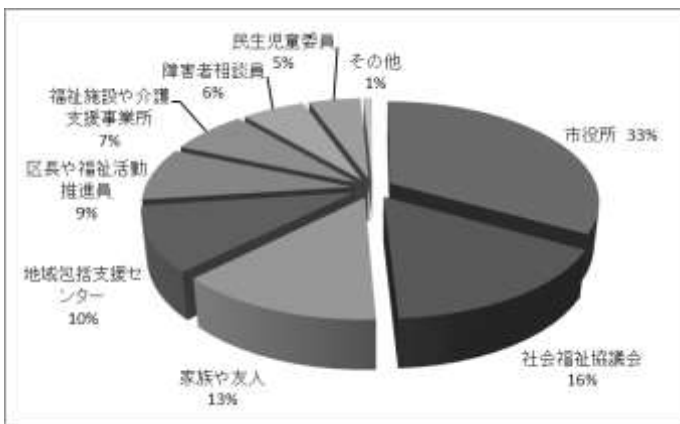
※若い世代の無関心層を振り向かせるためにはどうしたらいいか？

● 障害者福祉関係



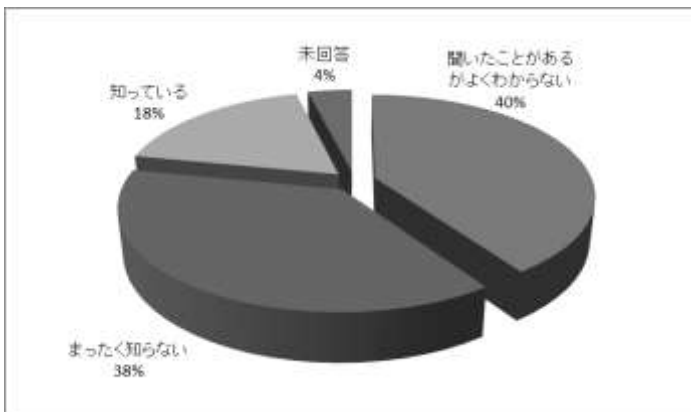
【設問 16】 障害者総合支援法について、又は利用方法について知っていますか

- ①聞いたことはあるがよくわからない (43.9)
 - ②知っている (12.8)
- で全体としての認知度は 56.6%
全く知らないという人が 42%います



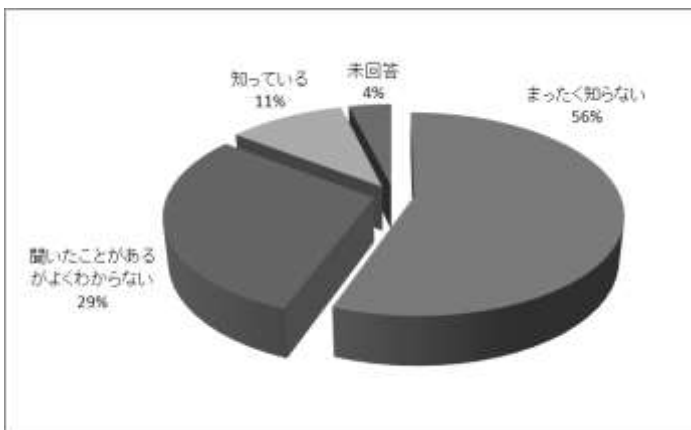
【設問 17】 障害者福祉制度について、又は利用方法についてどこ（誰）に相談をしますか

- ①市役所 (33.1)
- ②社協 (16.1 包括を含めると 26.5%)
- ③家族や友人 (13.3)



【設問 18】 成年後見制度について、又は利用方法について知っていますか

- ①聞いたことはあるがよくわからない (42.0)
 - ②全く知らない (39.2)
 - ③知っている (18.7)
- で全体としての認知度は 60.7%



【設問 19】 地域福祉サポートセンター（まもりーぶ）について、又は利用方法について知っていますか

- ①聞いたことはあるがよくわからない (30.8)
 - ②全く知らない (57.9)
 - ③知っている (11.2)
- で全体の認知度は 42%と低くなっています

障害者総合支援法については、ほぼ半数が知らない。聞いたことがある程度を含めるとおよそ90%が知らないことになる。年代が若くなるほどその傾向がみられる。

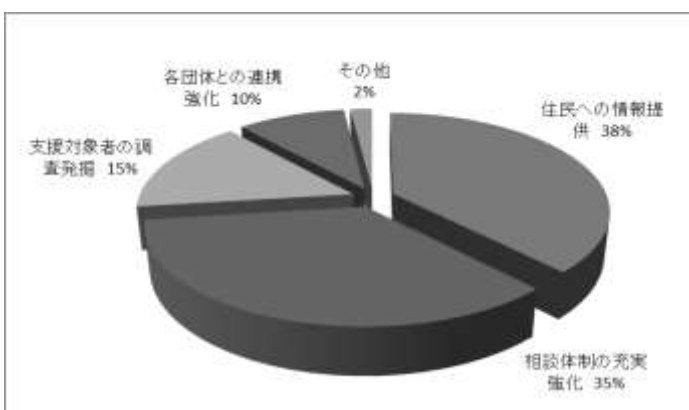
成年後見制度についても、全体の約2割しか認知されていなかった。年代が若くなるにつれ、その傾向は強まった。

また、まもりーぶについては全体の1割程度しか認知度が無く。ほとんど市民に知られていない結果だが、年代が高まるにつれ認知度は向上している。

制度や利用方法等について誰に相談するかという問いに対しては、全年代で市役所がトップだった。2位には社協が入り、3位は家族や友人であった。若い世代では市役所を除くと、家族や友人に相談するケースが突出して多かった。

※なぜこれほど認知度が低いのか検討する必要がある。

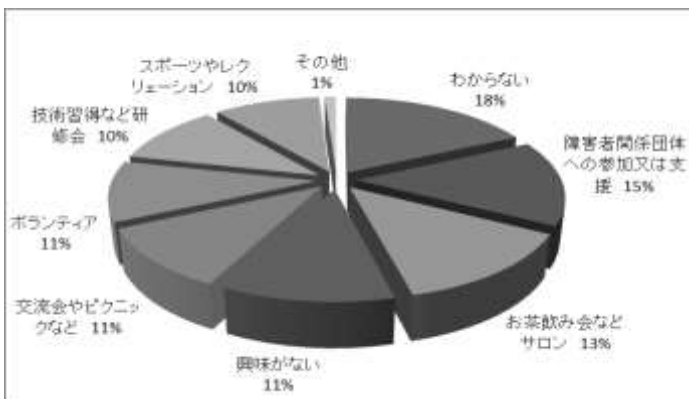
※制度やまもりーぶに対するPRを早急に強化する必要がある。



前問で「知っている」「聞いたことがあるがわからない」を選択した方にお聞きます

【設問 20】今後、地域福祉サポートセンター（まもりーぶ）に期待することは何ですか

- ①住民への情報提供（37.9）
- ②相談体制の充実強化（35.0）
- ③支援対象者の調査発掘（15.5）



【設問 21】障害者との社会参加活動の中で興味があり一緒に参加したい活動はありますか

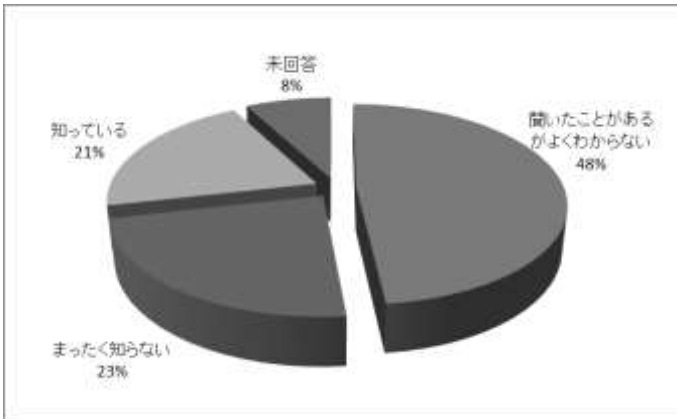
- ①わからない（17.9）
 - ②障害者団体への参加又は支援（14.9）
 - ③お茶飲み会などサロン（13.3）
- 興味がない人も 11.3%あります

障害者との社会参加で参加したい活動は？との問いには、全体としては「わからない」の回答が一番多かった。若い世代ではトップは「興味がない」、中間層では「技能習得など研修会」高齢層では「サロン活動」であった。

※わからないと無関心を合わせると全体の30%になり、いかにして注目してもらうか検討が必要。

※まずは障害者の正しい理解と、どのような事業があるかのPRが必要ではないかと思われる。

●子育て支援関係



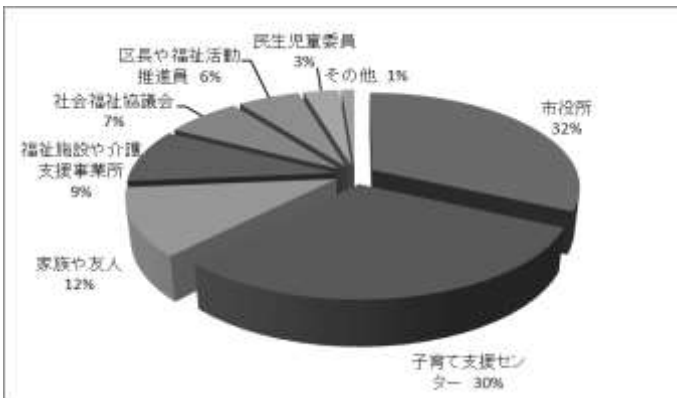
【設問 22】子ども・子育て支援法について、又は利用方法について知っていますか

①聞いたことはあるがよくわからない (52.5)

②全く知らない (25.1)

③知っている (22.4)

で全体としての認知度は 74.9%



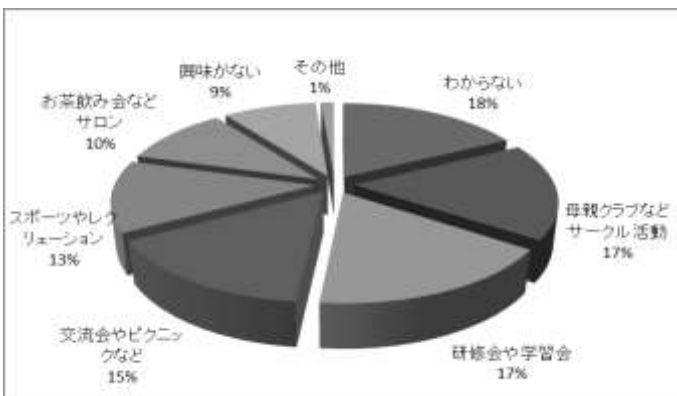
前問で「知っている」「聞いたことがあるがよくわからない」を選択した方にお聞きします

【設問 23】子育て支援について、又は利用方法について、どこ（誰）に相談をしますか

①市役所 (32.0)

②地域包括 (30.1)

③家族や友人 (11.5)



【設問 24】子育て支援活動の中で興味があり一緒に参加したい活動はありますか

①わからない (17.4)

②母親クラブやサークル活動 (17.1)

同率で 研修会や学習会交流会やピクニックとスポーツやレクリエーションを合わせると 27.9%あります

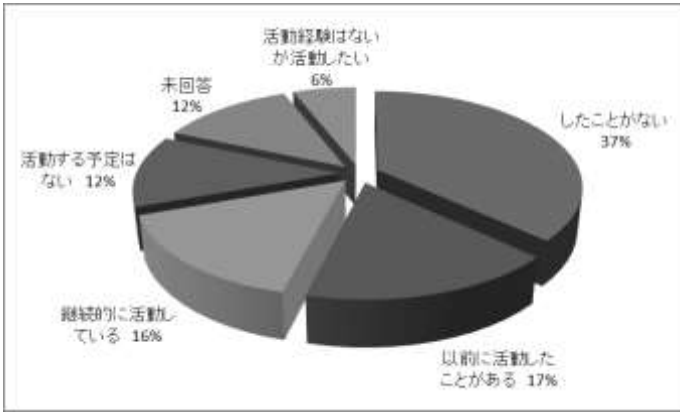
子ども・子育て支援法については、約 2 割程度が知っていると答えた。年代が若くなるほど知っている比率が高い状況にある。相談先としては、全体的に市役所が 1 位にあげられた。2 位が子育て支援センターで、3 位が家族や友人であった。

参加したい活動では、1 位に「わからない」があげられた。以下、「母親クラブなどのサークル活動」「研修会や学習会」であった。

※サークル活動や研修会・学習会の場が求められているので、その環境整備をどうするか検討を要する。

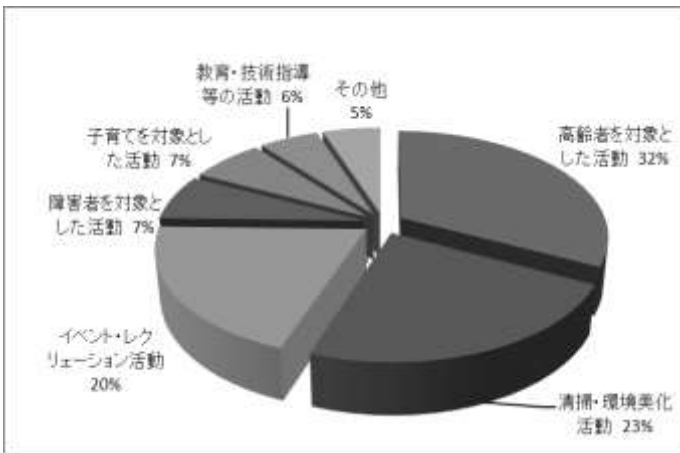
※若い子育て世代も関心が高い調査項目であるが、学校（教育関連機関）も巻き込んだ支援の展開を検討する必要がある。

● ボランティア活動関係



【設問 25】あなたは、現在ボランティア活動をしていますか

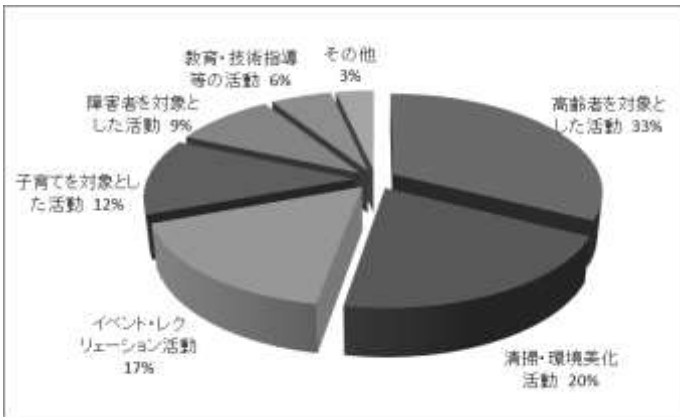
- ①したことがない (42.2)
活動の予定なしを合わせると 56.0%
- ②以前に活動したことがある (19.4)
- ③継続的に活動している (17.8)
経験はないが活動したいと考えている人は、全体の 6.8%しかありません



前問で「継続して活動」「いぜんにかつどう」を選択した方にお聞きします

【設問 26】どのような活動をしていますか

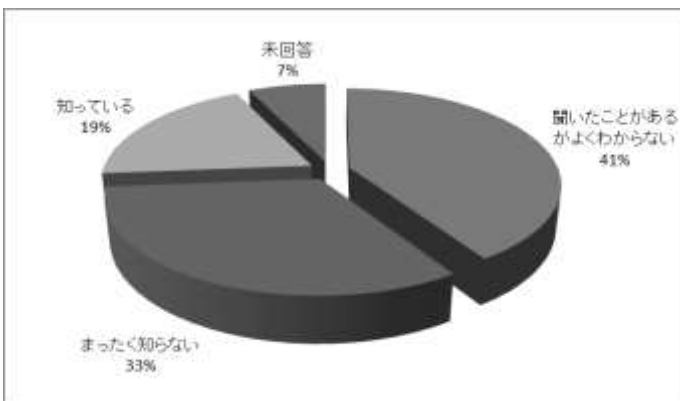
- ①高齢者対象 (32.4)
 - ②清掃・環境美化 (23.0)
 - ③イベント・レクリエーション指導 (20.0)
- 障がい者・子育てを対象とした活動は各々 7%程度



問 25 で「継続して活動」「以前に活動」「活動したい」を選択した方にお聞きします

【設問 27】今後、どのような活動をしたいですか

- ①高齢者対象 (32.5)
 - ②清掃・環境美化 (20.3)
 - ③イベント・レクリエーション指導 (16.6)
- 障がい者対象 (9.2)、子育て対象 (12.4) と問 26 より数ポイント増加



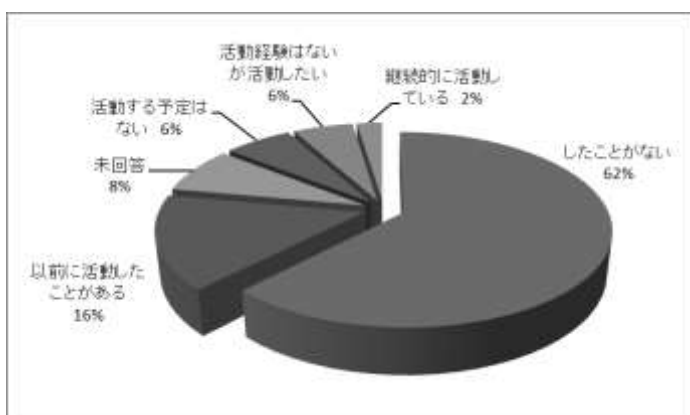
【設問 28】ボランティアセンターを知っていますか (利用したことがありますか)

- ①聞いたことはあるがよくわからない (44.0)
 - ②全く知らない (35.3)
 - ③知っている (20.7)
- で全体としての認知度は 64.7%

現在簿ランチャ活動をしているかとの問いには、「したことがない」が一番多かった。しかし、以前に活動したことがあるのは約20%あるし、現在活動中も17%あった。わずかながら今後活動したい（約7%）という人もある。

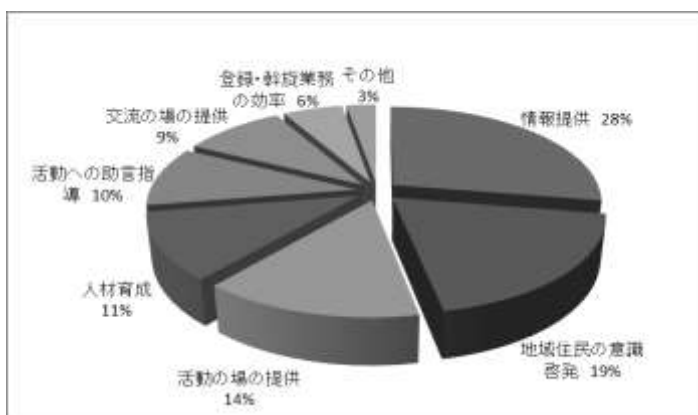
現在または以前活動したことがある人にどのような活動をしているか聞いたところ、1位が「高齢者対象の活動」、以下「清掃・環境美化」「イベント・レク」と続いた。年代が高いほど「高齢者対象の活動」が多く、若い世代では「イベント・レク」が多かった。

また、今後どんな活動をしたかとの問いでも、現在活動しているのと同じ結果であった。ボランティアセンターについては、全体の2割程度しか認知されていなかった。
※ボランティアを育成していくためにも、ボランティアセンターの認知度を高める必要がある。



【設問 29】災害ボランティア活動をしたことがありますか

- ①したことがない（67.5）
- ②以前に活動したことがある（17.1）
- ③活動予定なし（6.8）
- 継続して活動（2.6）、活動したい（6.0）



【設問 30】今後ボランティアセンター（災害ボランティアセンター）に期待することは何ですか

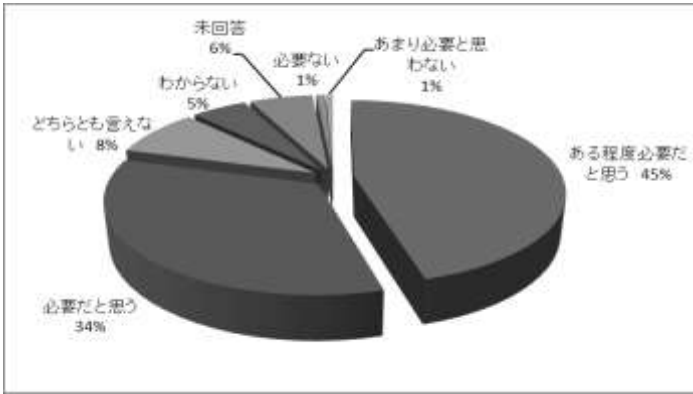
- ①情報提供（27.6）
- ②地域住民への意識啓発（19.4）
- ③活動の場の提供（14.2）
- 活動の場（14.2）、交流の場（9.3）の提供を望む声は23.3%

災害ボランティア活動をしたことがあるかとの問いには、全体の約7割が活動したことがないという結果であった。活動経験のある人は約2割程度にとどまっている。

今後ボランティアセンターに求められることは、1位「情報提供」、以下「住民意識の啓発」「活動の場の提供」であった

※市民の興味を引くような研修会等を通じて、日頃からボランティア活動に対する啓発活動を行い、活動の場づくりをしていく必要がある。

●地域支え合い活動関係



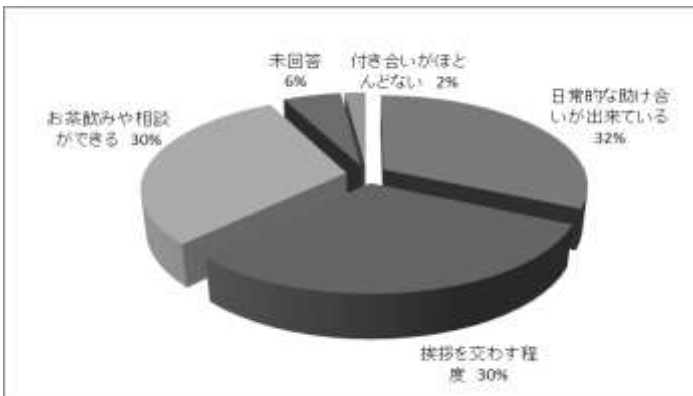
【設問 31】地域で生じる問題には、住民相互の協力で解決する必要があると思いますか

①ある程度必要 (48.4)

②必要 (35.8)

どちらともいえない (8.8)

住民相互の協力が必要と考えている人は全体の 84.2%



【設問 32】あなたは日頃、ご近所の方とどれ位の付き合いがありますか

①日常的な助け合い (33.8)

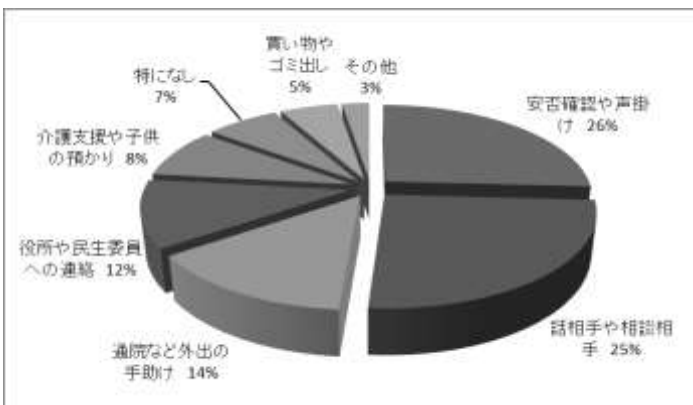
②あいさつ程度 (32.2)

③お茶のみや相談ができる (32.0)

地域課題は住民相互で解決する必要があると思うかとの問いには、「ある程度必要」「必要」「どちらとも言えない」の順であった。

日頃近所との付き合いの程度は、全体としては「日常的な助け合い」「お茶のみや相談」で約 65% 合ったが、若い世代では半数以上で「挨拶を交わす程度」だった。

※地域連携は必要だと思いつつ、若い世代の地域への関わりが弱いので、地域活動に繋げるための仕組みが必要である。

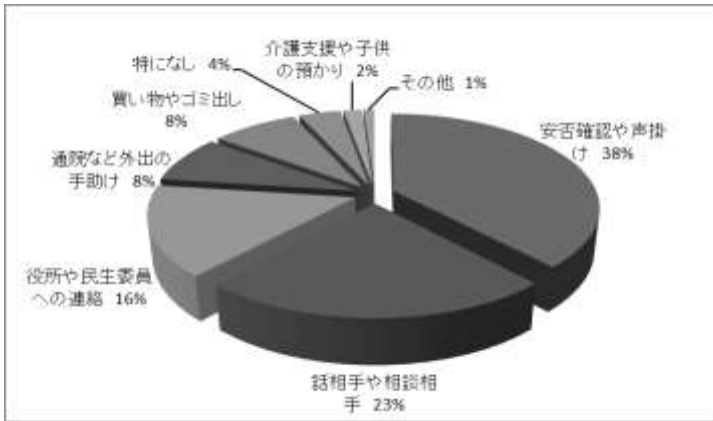


【設問 33】あなたが誰かの手助けが必要になった場合、してほしい事は何ですか

①安否確認や声掛け (25.9)

②話相手や相談相手 (25.3)

③通院や外出の手助け (14.0)



【設問 34】あなたの地域で手助けを必要とする家庭があった場合、あなたにできることは何ですか

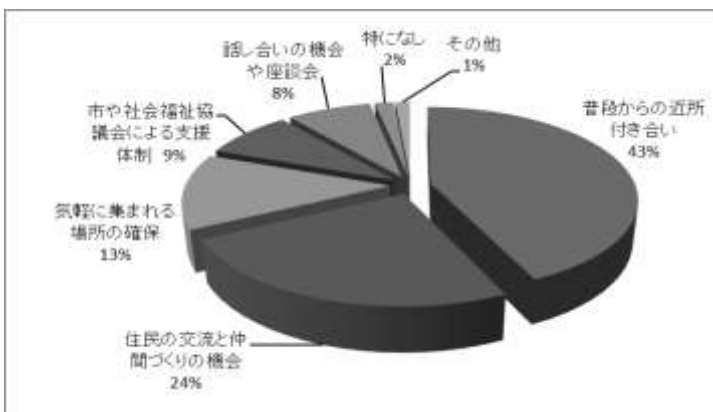
- ① 安否確認や声掛け (38.2)
 - ② 話相手や相談相手 (23.4)
 - ③ 役所や民生委員への連絡 (15.4)
- 買い物・ゴミだし (8.1)、外出支援 (8.2)
直接支援は 16.3%

手助けが必要になったとき何をしてほしいかとの問いには、1位が「安否確認や声掛け」次いで「話相手や相談相手」であった。若い世代では「介護支援や子どもの預かり」も1位と同率であった。また、年代が高くなるにつれ「外出の手助け」も回答数が多くなっている。

あなたに出来ることは？との問いには、「安否確認や声掛け」「話相手や相談相手」「役所等への連絡」の順であった。

※してほしいこと・できることで、「安否確認や声掛け」「話相手や相談相手」が同じ比率で回答されているので、どうマッチングしていくかが課題。

※小地域ネットワーク事業の推進を強化する必要がある。

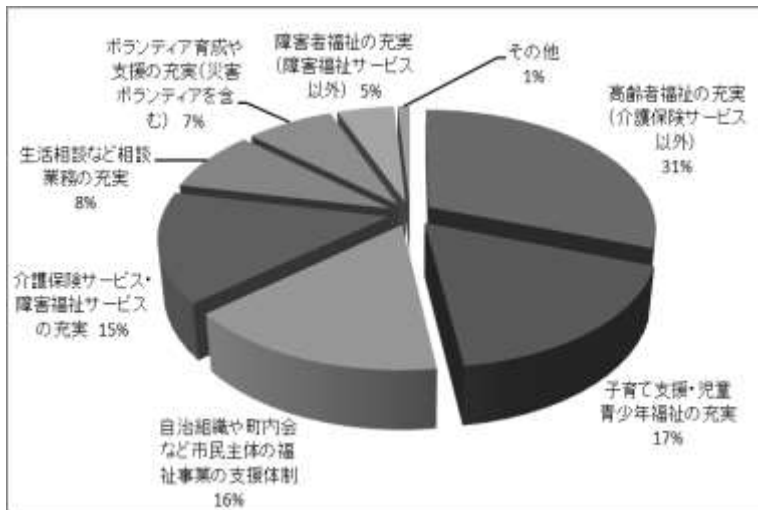


【設問 35】地域での支え合い活動を充実していくためには、何が必要だと思いますか

- ① 普段からの近所づきあい (43.2)
 - ② 交流と仲間づくり (24.3)
 - ③ 気軽に集まれる場 (13.2)
- 市や社協による支援体制 (8.4) も必要とされています

地域での活動充実のために何が必要と思うかとの問いには、「普段からの近所づきあい」と答えた人が、全体の約半数を占めた。次いで「住民の交流と仲間づくりの機会」(24%)、「気軽に集まれる場所の確保」(13%)であった。

※小地域ネットワークやミニデイサービスを更に発展させる必要がある。



【設問 36】登米市社協では地域福祉活動計画に基づき事業を実施しておりますが今後、特に重点的に取り組むべきだと思われる項目を教えてください

- ① 高齢者福祉 (30.5)
- ② 子育て・青少年福祉 (17.4)
- ③ 自治組織や町内会等の福祉事業への支援体制 (15.7)
- 介護保険・障害者福祉サービス (14.8)、相談業務 (8.4)

社協が重点的に取り組むべきと思われるものは？との問いには

- ① 高齢者福祉の充実 (30%)
- ② 子育て支援・児童青少年福祉の充実 (17.4%)
- ③ 自治組織等市民主体の福祉事業の支援体制 (15.7%)
- ④ 介護保険・障害福祉サービス (14.8%)
- ⑤ 生活相談など相談業務の充実 (8%)

となった

◎その他全体をとおして

全ての面において、言葉や機関名は知っている聞いたことがあるが中身が分からない、そして、求めるものは情報提供というのがほぼ共通している。それは、取りも直さず正確な情報をタイムリーかつスピーディーに知りたいという住民の要望であり、現在は、情報発信が不十分なため、興味があっても実践や活動に繋がっていかないという段階ではないかと感じられる。今後は、社協の強化発展計画にも謳われているように、分かりやすい情報提供という部分が、提供（発信）方法、媒体を含めて検討が必要であり、重要になってくると思われる。

※今後の登米市社協の取組み

① 情報発信に課題があるとの結果なので、広報紙やパンフレット等を作成する際年代に併せた紙面構成やレイアウト等を工夫する。又ホームページを積極的に活用し、更新頻度を上げタイムリーに情報発信を行う。同時に、特に若い世代には FaceBook・Twitter・Line等の SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を利用した、現代社会に即したコミュニティツールを活用した情報発信についてシステム化を図る。

② 地域の繋がりは必要と感じながらも、つながりが少ないとの実感や、【安否確認や声掛け】【話し相手や相談相手】が困ったときにしてほしいこと・出来ることの比率が高いことから、小地域ネットワーク事業を強力に推進していく。

③前述②の小地域ネットワーク事業の推進を図るため、現在実施している「地域福祉活性化事業」から「地域福祉教育推進事業」に事業目的をより明確にし、地域活動全体の活性化を図り、地域懇談会の開催等について積極的に働きかけていく。

④若い世代との関連をどう構築していくかについては、早急な効果は期待できないが、地域のイベントや学校行事等に関わりをもち社協活動のPRを強化する。

⑤全体で3割の人が「高齢者福祉の充実」を社協が重点的に取り組むべきと答えているので、意向調査等も踏まえながら新たな高齢者福祉事業の展開に繋げていく

⑥社協が実際に展開している事業（配食サービス、移送サービス、介護福祉サービス、障害者福祉事業、地域福祉活動等）は多岐にわたっており、関わりがある住民には一定の理解を得ているが、それ以外の人にはあまり認識されていない結果であることから、事業の展開方法や種類等について検討を行い、社協の更なる認知度向上を図る。

⑦「このことなら社協に相談」と住民に思われるような、特色と「売り」を前面に押し出した事業展開を進める。また、それを通じて知名度アップにもつなげる。